

「ネットの大学managara」と共に導入開始

新潟産業大学

新潟産業大学（新潟県柏崎市）および同大の経済学部経済経営学科に設置されている通信教育課程「ネットの大学 managara」は、4月より関西学院大学（兵庫県西宮市）と日本IBM株式会社（本社東京・中央区）が共同開発した「AI 活用人材育成プログラム」を導入している。

近年、AIの技術は目覚ましい進歩を遂げ、人々の生活に身近なものとなっている。その一方、経済産業省の「IT人材需給に関する調査」によると、IT人材の不足は喫緊の課題で、令和12（2030）年には最大で約80万人規模の人材が不足する可能性がある」と試算されている。こうした課題の解決に貢献していくため、関西学院大と日本IBM社は「AI活用人材育成プログラム」を共同で開発し、昨年8月に文部科学省によ

る「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」の認定を受け、現在100社以上の企業や自治体がこのプログラムを導入している。そして今回、新潟産業大および「ネットの大学 managara」も同プログラムを導入することを決定した。

このプログラムは初学者でもAI活用人材となれるように考え抜いて開発された教材を用いているのが特徴で、AIスキル・ITスキル・データサイエンススキル・ビジネススキルの四つのスキルを無理なく総合的に身につけることができる。プログラムを修了した学生は、「修了証」と国際標準規格に則って資格・能力・スキルを示すデジタル証明書の「オープンバッジ」を取得することができるため、就職活動時などでもAI

を活用できる人材としてアピールすることが可能だ。

新潟産業大の梅比良眞史学長は「DX時代の到来を迎えたいま、全国的にIT人材不足が懸念されているが、本学でAIを活用できる人材を育成することは、これからの地域社会を守り、より一層発展に貢献できる人材の輩出につながる。これからも時代の変化に合わせ、たくましく生き抜く人材の育成を推進していく」とコメントしている。

なお、「ネットの大学 managara」は、同大の経済学部経済経営学科に設置する通信教育課程。通学の必要がなく、好きな時間に好きな場所で1回10分程度の映像講義を受講することができるため、無理なく大学卒業・経済経営学の学士号取得を目指すことが可能だ。何かをし「ながら」学ぶ、学び「ながら」何かに挑戦する——という意味から「ネットの大学 managara」と名づけられ、高校生の進学先としてはもちろん、社会人やシニア層の学び直しができる通信制大学としても注目を集めている。